

北九州空港に関する市民意識調査結果（速報）

1. 調査結果

（1）北九州空港の利用実態

- ・ 北九州市民および下関市民による北九州空港の利用割合は約 43%、未利用割合は約 57%であった。なお空港の利用割合は、「飛行機を利用しない」、「新幹線など他の交通機関を利用する」という市民も含めた数字である。
- ・ ただし、北九州市と下関市では利用割合に差異がある。前者の利用割合は約 5 割、後者の利用割合は約 3 割であった。
- ・ 表 1 より、両市とも北九州空港にアクセスしやすい地域ほど、空港の利用割合は大きいことがわかる。
- ・ 北九州市の場合には、小倉北区や小倉南区の利用割合が 5~6 割ほどであるものの、門司区、八幡西区、戸畑区の利用割合は 4 割程度にとどまる。
- ・ 下関市の場合には、彦島地域や「本庁所管」地域の利用割合が 3 割以上であるのに対して、合併前自治体の地域の利用割合は約 1 割であった。

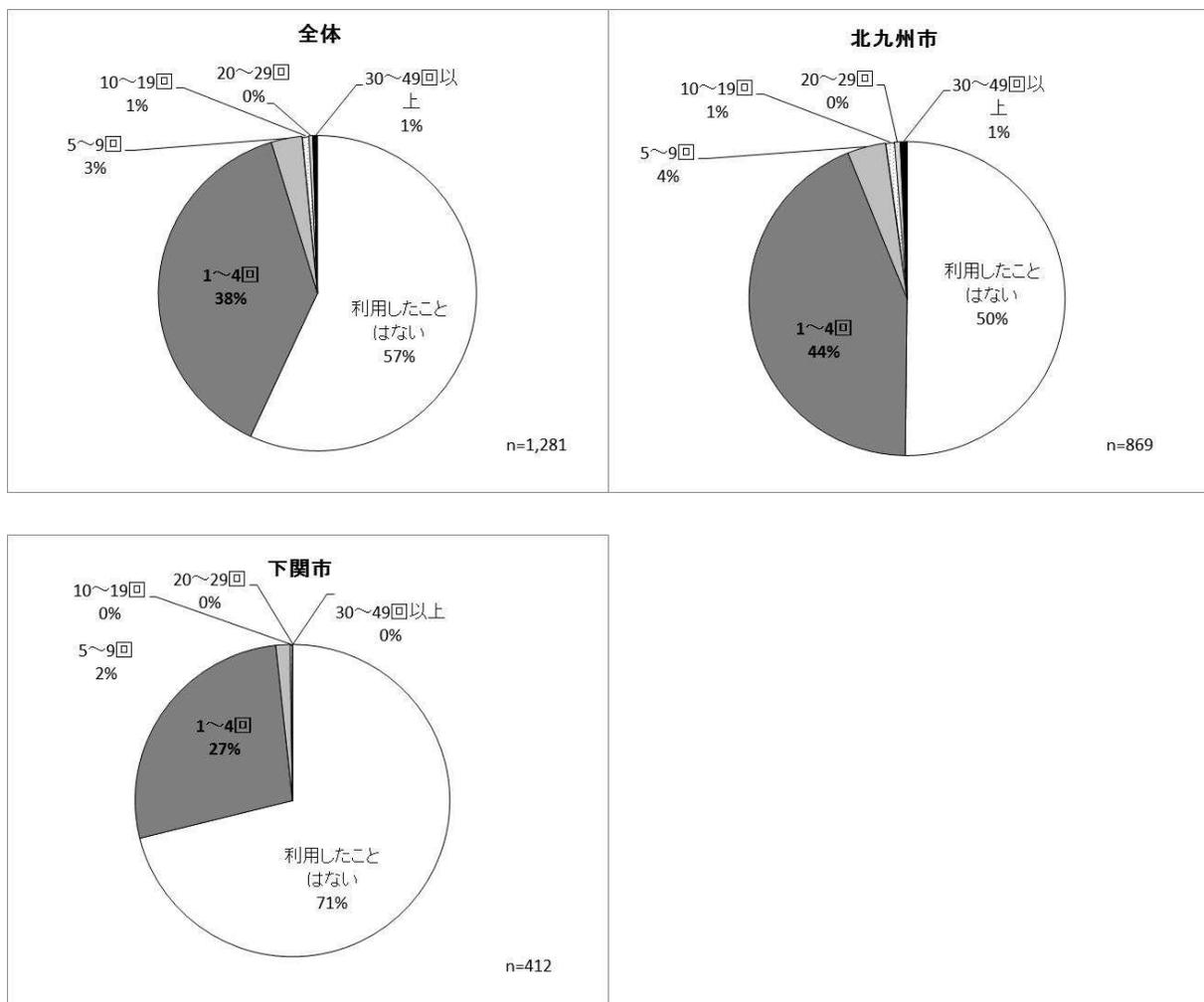


表 1 関門地域における北九州空港の利用状況

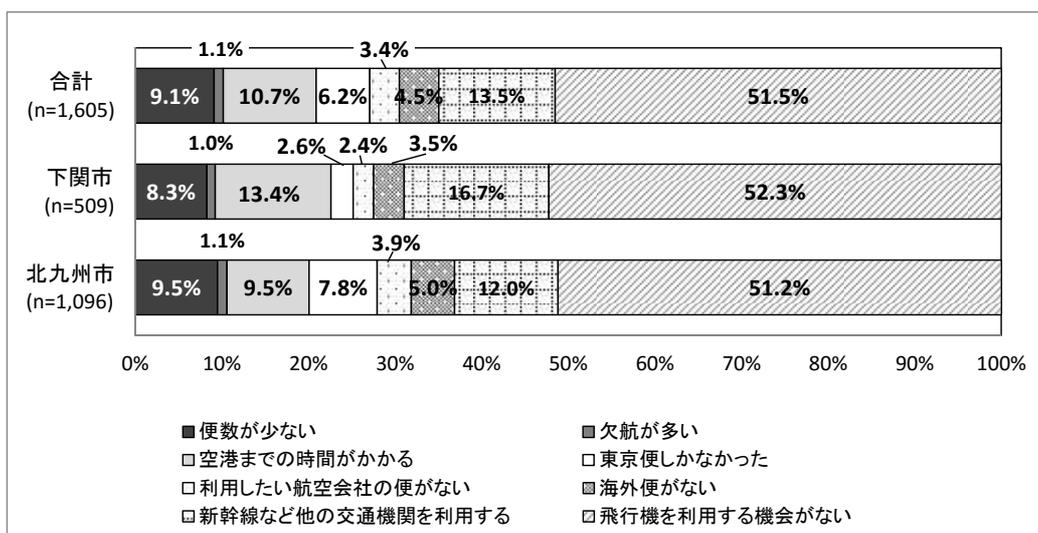
居住地	回答数	利用回数						
		利用したことはない	1～4回	5～9回	10～19回	20～29回	30～49回以上	
北九州市	門司区	92 (100.0%)	54 (58.7%)	33 (35.9%)	4 (4.3%)	0 (0.0%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)
	小倉北区	176 (100.0%)	76 (43.2%)	88 (50.0%)	6 (3.4%)	3 (1.7%)	1 (0.6%)	2 (1.1%)
	小倉南区	197 (100.0%)	97 (49.2%)	89 (45.2%)	7 (3.6%)	1 (0.5%)	0 (0.0%)	3 (1.5%)
	若松区	76 (100.0%)	37 (48.7%)	33 (43.4%)	5 (6.6%)	1 (1.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	八幡東区	70 (100.0%)	32 (45.7%)	31 (44.3%)	3 (4.3%)	2 (2.9%)	1 (1.4%)	1 (1.4%)
	八幡西区	210 (100.0%)	110 (52.4%)	89 (42.4%)	8 (3.8%)	1 (0.5%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)
	戸畑区	48 (100.0%)	30 (62.5%)	17 (35.4%)	1 (2.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	小計	869 (100.0%)	436 (50.2%)	380 (43.7%)	34 (3.9%)	8 (0.9%)	5 (0.6%)	6 (0.7%)
下関市	合併前自治体 (旧菊川町、旧豊田町、旧豊浦町、旧豊北町)	40 (100.0%)	34 (85.0%)	6 (15.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	山陽地域 (長府、王司、清末、小月、王喜、吉田支所の範囲)	95 (100.0%)	71 (74.7%)	23 (24.2%)	1 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	山陰地域 (川中、安岡、吉見、勝山、内日支所の範囲)	124 (100.0%)	87 (70.2%)	35 (28.2%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	彦島地域	43 (100.0%)	28 (65.1%)	14 (32.6%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	「本庁所管」地域 (下関駅周辺、唐戸、東駅など)	110 (100.0%)	73 (66.4%)	34 (30.9%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
	小計	412 (100.0%)	293 (71.1%)	112 (27.2%)	6 (1.5%)	1 (0.2%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
合計	1,281 (100.0%)	729 (56.9%)	492 (38.4%)	40 (3.1%)	9 (0.7%)	5 (0.4%)	6 (0.5%)	

注：下段の括弧内の数値は各地区の総回答者数に占める割合を示す。

(2) 未利用の理由

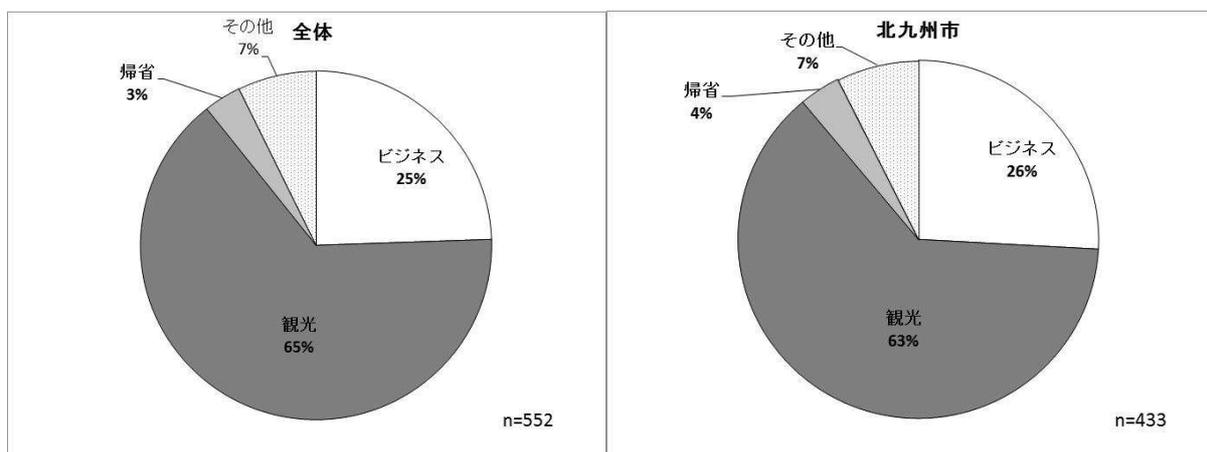
- ・ 北九州と下関両市ともに、「飛行機を利用しない」との回答が5割に上る。
- ・ 北九州と下関両市の合計では「新幹線など他の交通機関を利用する」、「空港までの時間がかかる」との回答が1割を超えている。
- ・ 下関市民の回答では「新幹線など他の交通機関を利用する」、「空港までの時間がかかる」という割合が、北九州市民よりも4~5ポイントほど高くなっている。この結果は、下関市から北九州空港へのアクセスを改善できれば、下関市民が他空港や新幹線ではなく北九州空港を利用する可能性が高いことを示唆している。

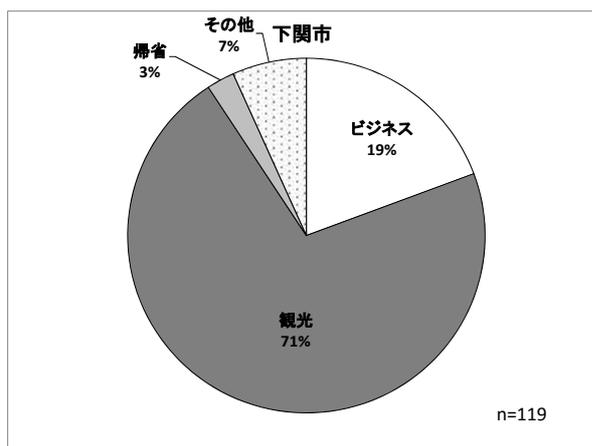
図1 北九州空港を利用しない理由



(3) 利用目的

- ・ 北九州市と下関市民の空港利用者の約6割が観光目的であることがわかる。
- ・ 下関市民の観光目的の割合は7割を超えており、その割合は北九州市民よりも大きい。
- ・ 北九州市民のビジネス目的の割合は26%であるが、下関市民のビジネス目的の割合は19%にとどまる。
- ・ ただし、「平成22年度航空旅客動態調査」(国土交通省)では、北九州市民のビジネスでの利用が約7割を占める。本調査とは対象や時期が異なるため、結果に差異がある。

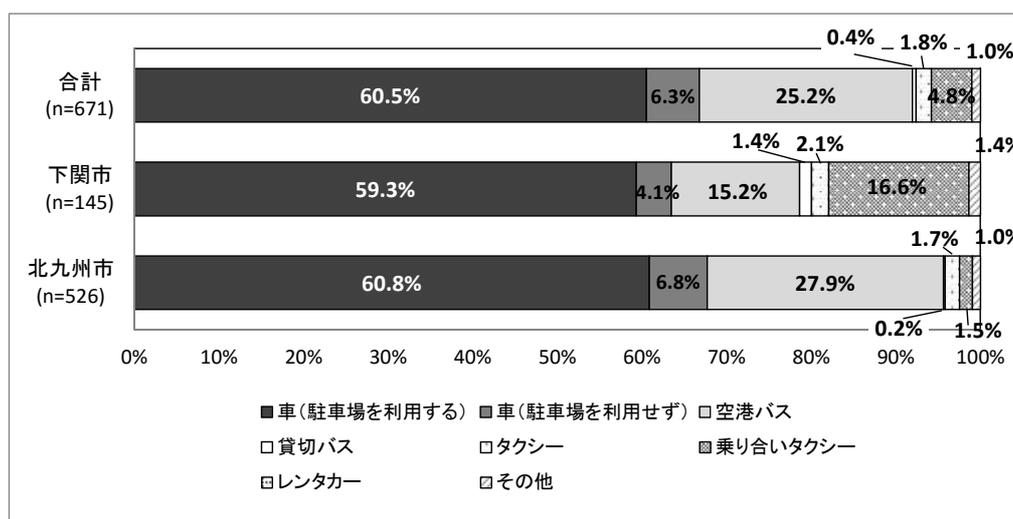




(4) 交通手段

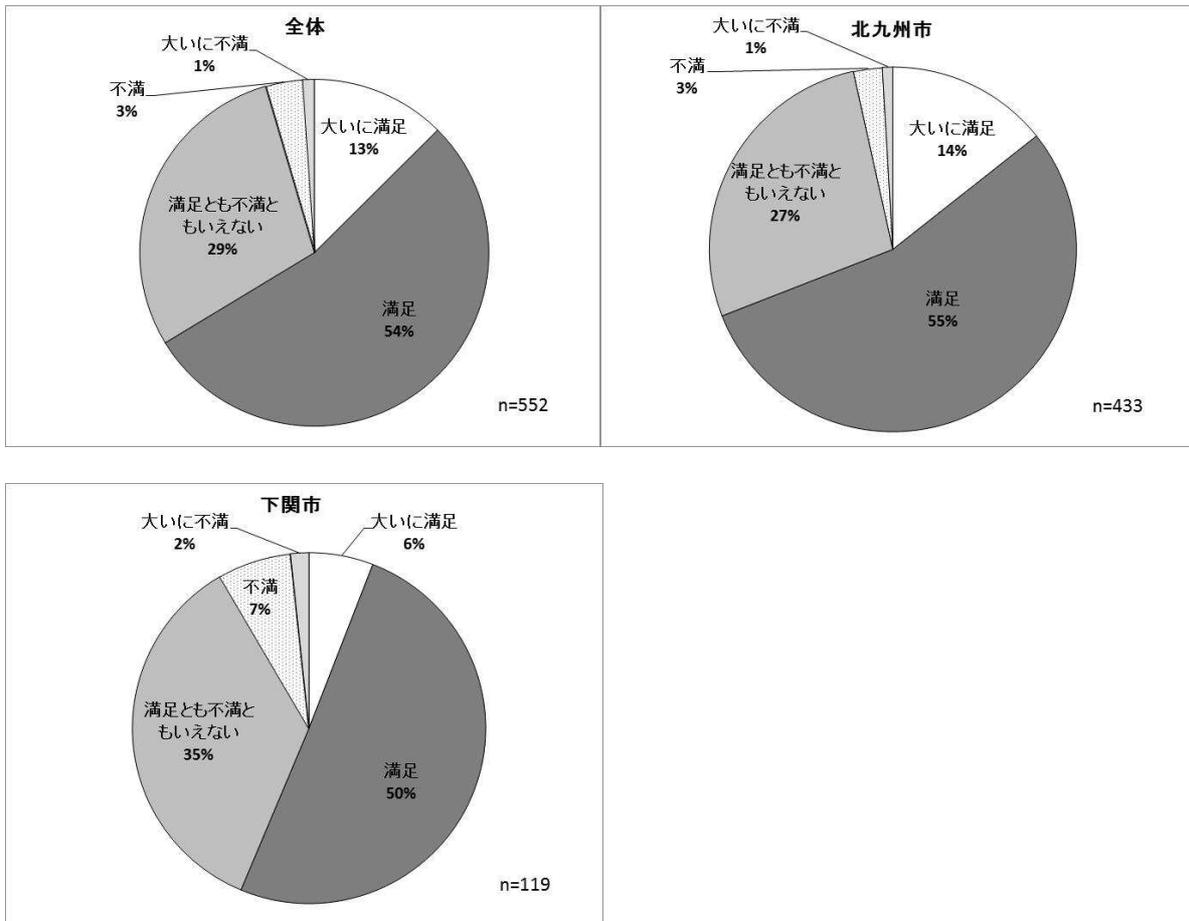
- ・ 北九州と下関両市ともに、「車（駐車場）利用」との回答が約6割に上る。
- ・ ただし、他の交通手段については両市に差異がある。
- ・ 「空港バス」の回答は北九州市で27.9%となり「車（駐車場を利用する）」に次いで多いが、下関市では15.2%であった。
- ・ 下関市内から北九州空港までのバスは現在運行していないため、空港利用者の1割以上の下関市民は小倉駅等を経由してバスで北九州空港を利用しているといえる。
- ・ 下関市民の回答では車に次いで「乗り合いタクシー」が16.6%である。この結果には、北九州空港から下関市へのエアポートバスがない代わりに、乗り合いタクシーが門司や下関方面まで運行している点が反映されていると考えられる。

図2 北九州空港を利用する際の交通手段



(5) 利用満足度

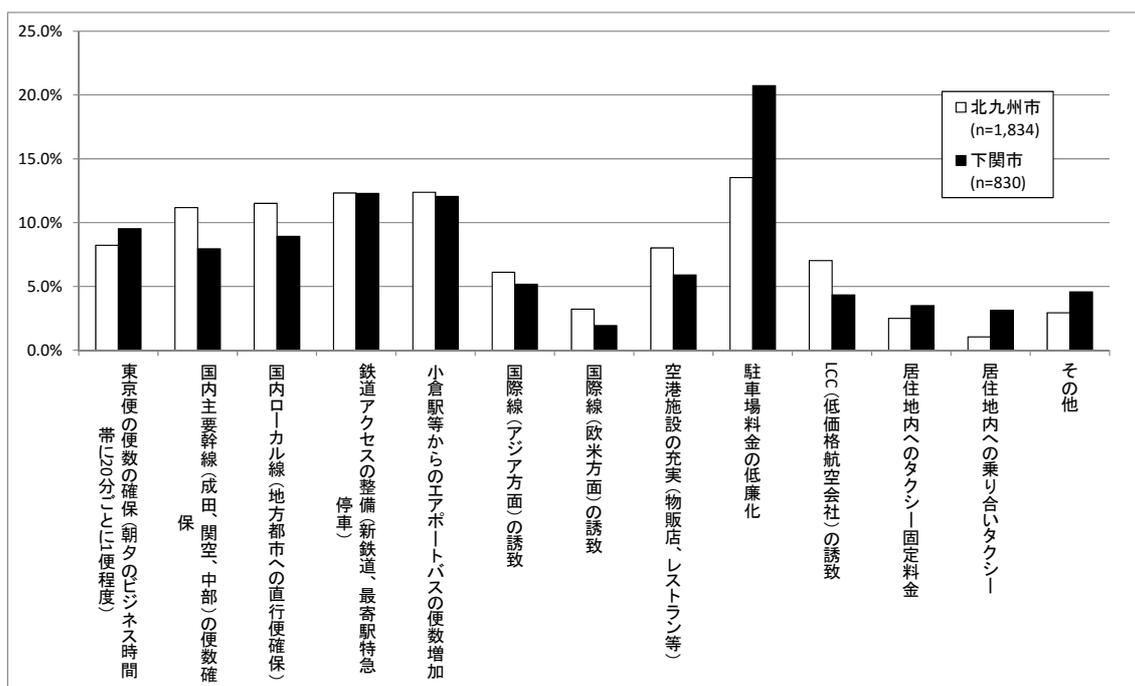
- ・ 北九州市と下関市民の空港利用者のうち 13%が「大いに満足」、54%が「満足」と回答している。つまり、北九州市と下関市民の空港利用者の 6 割以上が北九州空港に満足している。
- ・ 北九州市民の北九州空港利用者の 69%（「大いに満足」：14%、「満足」：55%）が満足している。
- ・ 下関市民が北九州空港に満足している割合は 56%（「大いに満足」：6%、「満足」：50%）にとどまり、北九州市民よりも 13 ポイントも低い。



(6) 改善希望

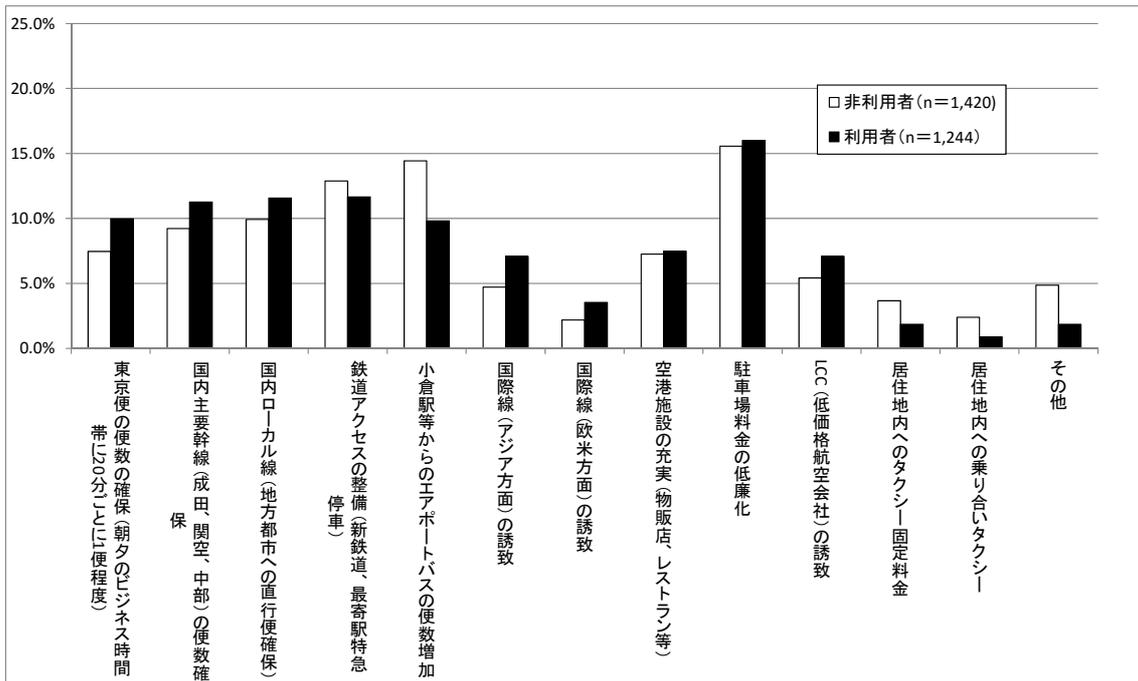
- ・ 「駐車場料金の低廉化」が両市民からの改善希望において最多であった。
- ・ 「駐車場料金の低廉化」の回答割合は北九州市民で約 13.5%であるのに対して、下関市民で約 21%であった。この背景には、山口宇部空港の駐車場料金が無料であることが影響していると考えられる。
- ・ 利用者では「駐車場料金の低廉化」に次いで、「鉄道アクセスの整備（新鉄道、最寄駅特急停車）」「国内ローカル線（地方都市への直行便確保）」「国内主要幹線（成田、関空、中部）の便数確保」「東京便の便数の確保（朝夕のビジネス時間帯に20分ごとに1便程度）」「小倉駅等からのエアポートバスの便数増加」の回答が1割近くあり、これらの回答割合は拮抗している。
- ・ 非利用者では「駐車場料金の低廉化」に次いで、「小倉駅等からのエアポートバスの便数増加」の回答が14.4%、「鉄道アクセスの整備（新鉄道、最寄駅特急停車）」の回答が12.9%である。非利用者は空港アクセスの改善を求めている。

図3 北九州市民と下関市民における北九州空港への改善希望の項目



注：複数回答可として調査を実施したため、回答数よりも多い合計値になっている。

図 4 非利用者と利用者における北九州空港への改善希望の項目



注：複数回答可として調査を実施したため、回答数よりも多い合計値になっている。

(7) 北九州空港以外の利用状況

- ・ 北九州空港以外の回答は、「あなたは現在の北九州空港開港後、各空港（福岡、山口宇部、大分）発着の飛行機を1年につき平均何回くらい利用されますか。※片道1回、往復2回とお考えください。」との質問に対するものである。
- ・ 福岡空港の利用割合は北九州市民のうち50.1%、下関市民のうち37.6%であった。
- ・ 北九州市民による北九州空港と福岡空港の利用割合はほぼ5割で同率であるが、下関市民による福岡空港利用割合は北九州空港よりも8.7ポイント大きいことがわかる。関門地域における福岡空港の利用割合が北九州空港よりも大きい理由は、下関市民による福岡空港利用割合が大きいことに起因している。
- ・ 北九州空港では国際線の定期路線がないことやアクセスが不便であるため、関門地域における航空需要が福岡空港に流れている可能性が高い。

表 2 北九州市民と下関市民による関門地域における周辺空港の利用状況

	関門地域	北九州市	下関市
北九州空港	43.1%	49.8%	28.9%
福岡空港	46.1%	50.1%	37.6%
山口宇部空港	11.4%	1.6%	32.0%
大分空港	1.2%	0.9%	1.7%

注：数値は各地域の総回答者数に占める割合を示す。

(8) 北九州空港の国際線に関する意識

- ・ 北九州・下関両市民が北九州空港の国際線で最も実現してほしい点は「他の空港より安い費用で海外の目的地まで行ける（そのような航空会社の便がある）」ということがわかる。
- ・ また、「海外旅行の際、北九州空港に駐車場が十分あり、マイカーでの利用に配慮されている」ことが国際線の実現で重要視されていることがわかる。特に、下関市における同回答の第1位の回答割合は、北九州市よりも7ポイント大きい。下関市民は「海外旅行の際、北九州空港に駐車場が十分あり、マイカーでの利用に配慮されている」点を北九州市民よりも重視していることがうかがえる。

図4 北九州市における国際線で実現してほしい優先順位第1位と第2位の割合

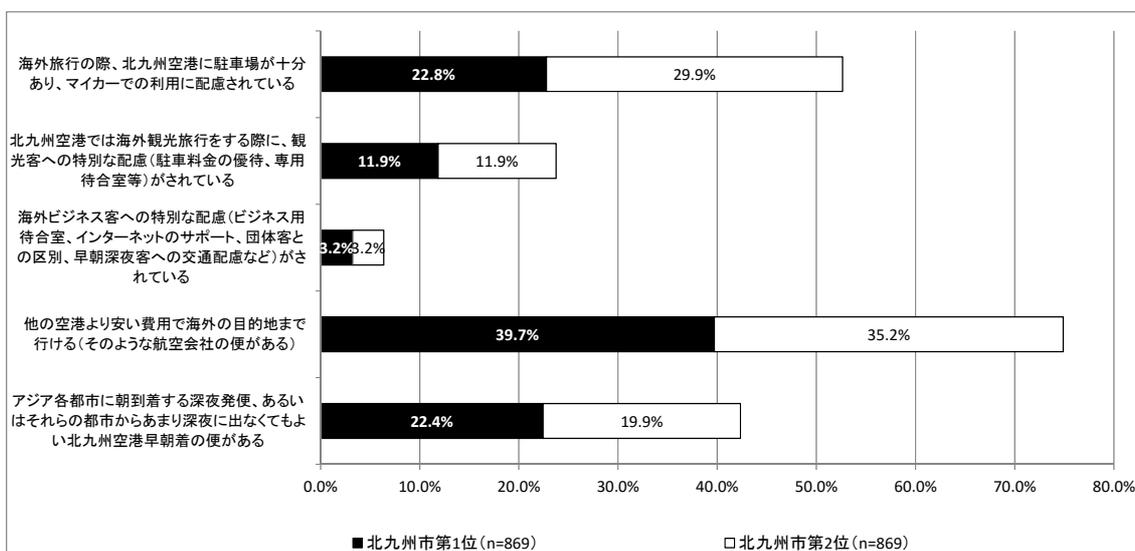
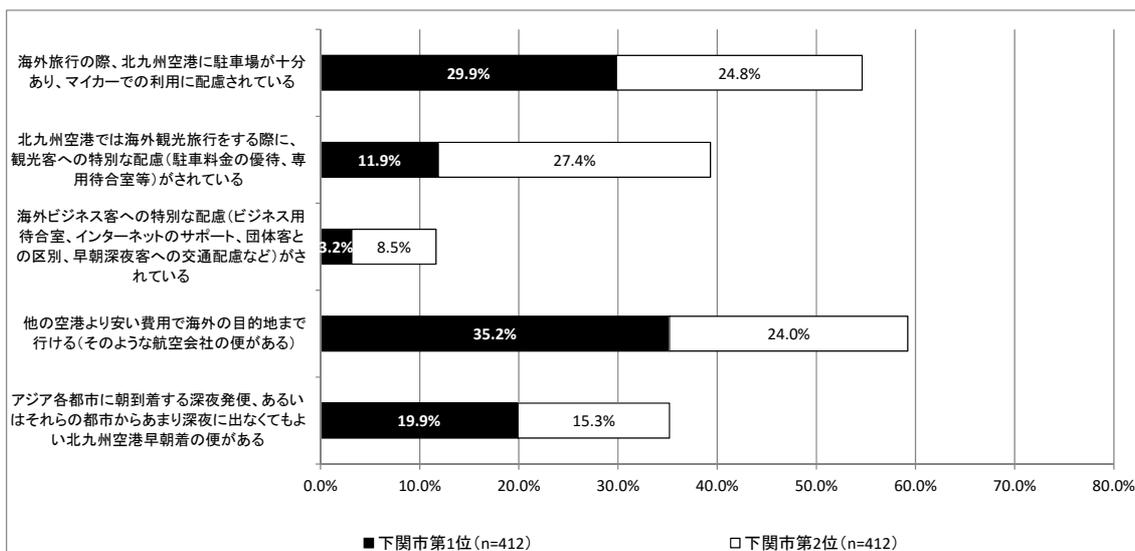


図5 下関市における国際線で実現してほしい優先順位第1位と第2位の割合



ま と め

(1) 北九州市民の利用割合は約 5 割、下関市民の利用割合は約 3 割であった。なお空港の利用割合は、「飛行機を利用しない」、「新幹線など他の交通機関を利用する」という市民も含めた数字である。

(2) 北九州空港を利用しない理由では、北九州と下関両市ともに「飛行機を利用しない」との回答が 5 割に上る。また、下関市民の回答では「新幹線など他の交通機関を利用する」、「空港までの時間がかかる」という割合が、北九州市民よりも 4~5 ポイントほど高くなっている。下関市から北九州空港へのアクセスを改善できれば、下関市民が他空港や新幹線ではなく北九州空港を利用する可能性が高い。

(3) 北九州市民の観光目的の利用割合は 63%、北九州市民のビジネス目的の利用割合は 26%。一方で、下関市民の観光目的の割合は 7 割を超えており、その割合は北九州市民よりも大きい。ただし、「平成 22 年度航空旅客動態調査」(国土交通省)では、北九州市民のビジネスでの利用が約 7 割を占める。本調査とは対象や時期が異なるため、結果に差異が生じている。

(4) 北九州と下関両市ともに、「車(駐車場)利用」との回答が約 6 割に上る。ただし、他の交通手段については両市に差異がある。「空港バス」の回答は北九州市で 27.9%となり「車(駐車場を利用する)」に次いで多いが、下関市では 15.2%であった。

(5) 北九州市民の北九州空港利用者の 69% (「大いに満足」: 14%、「満足」: 55%) が満足している。下関市民が北九州空港に満足している割合は 56% (「大いに満足」: 6%、「満足」: 50%) にとどまり、北九州市民よりも 13 ポイントも低い。

(6) 「駐車場料金の低廉化」が両市民からの改善希望において最多であった。同回答の割合は北九州市民で約 13.5%であるのに対して、下関市民で約 21%であった。この背景には、山口宇部空港の駐車場料金が無料であることが影響していると考えられる。

(7) 福岡空港の利用割合は北九州市民のうち 50.1%、下関市民のうち 37.6%であった。北九州市民による北九州空港と福岡空港の利用割合はほぼ 5 割で同率であるが、下関市民による福岡空港利用割合は北九州空港よりも 8.7 ポイント大きい。北九州空港では国際線の定期路線がないことやアクセスが不便であるため、関門地域における航空需要が福岡空港に流れている可能性が高い。

(8) 北九州・下関両市民が北九州空港の国際線で最も実現してほしい点は「他の空港より安い費用で海外の目的地まで行ける(そのような航空会社の便がある)」ということであった。また、「海外旅行の際、北九州空港に駐車場が十分あり、マイカーでの利用に配慮されている」ことが国際線の実現で重要視されている。

■雑感

北九州市民の利用者のうち7割近くが北九州空港に「満足」している点は評価されてよいのではないかと。ただし、下関市民の3割近くも北九州空港を利用している。今後は、北九州空港利用促進協議会に下関市関係者も加えていくなどして、下関市民にも北九州空港を利用しやすい環境を整え、同空港の最大の課題であるアクセス面を改善していく必要がある。

また、関門地域における福岡空港の利用割合（46.1%）は北九州空港（43.1%）よりも大きいことを踏まえると、関門地域の航空需要が福岡空港に流れている可能性が高い。北九州空港ではアクセスの充実や国際線定期便の開設が急務といえる。

※本調査の詳細については、2016年3月下旬から4月上旬に刊行予定の『関門地域研究』Vol.25にて発表する予定です。また本調査は、5月に下関市で開催される関門地域共同研究会で報告予定です。